



経済教育ネットワーク
Network for Economic Education



東京部会(第151回)

日時: 2026年9月26日(土) 15:00 - 17:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 東館5階会議室

参加人数: 参加者: 32名(会場21名、zoom11名)

【内容要旨】

1 佐藤英司先生(福島大学経営経済学類)より「市場競争と消費者保護 シン経済教育(第4講・第5講)」の報告があった。

2026年9月に地元の県立白河高等学校にて、出前授業による1年生21名向けに実施したもの。

問いと授業展開は以下の通り。

問い: 消費者が何を選ぶかによって、企業や社会はどのように変わるのだろうか

- (1) 導入・今日の問い
- (2) 架空のラーメン店を選ぶ
- (3) 選ばれなかった店の経営者として工夫を考える
- (4) 消費者の選択・需要・競争・市場を整理する
- (5) 情報の非対称性と限定合理性を扱う
- (6) 表示をめぐるルールを考える
- (7) 独占禁止法・景品表示法・消費者契約法に接続する
- (8) 経済学の見方(出前授業用)と振り返り

佐藤先生は、生徒が価格よりも近さを優先する傾向を発見し、理解と記述の説明能力のギャップが存在することを指摘した。

佐藤先生は本実践ワークシートの実施結果について報告し、21人の学生のうち約半数が理解と説明のギャップを抱えていることを確認した。生徒たちは個別の要素は理解できているが、全体の流れを繋げる能力に課題があることが判明した。特に理解と表現の訓練が必要であることを強調し、特に自力での説明能力向上のための工夫が必要であると述べた。

質疑と討論は以下の通りである。まず最後の振り返り部分での「なぜ?」という質問を含めることで生徒の理解を深めることを提案された。佐藤先生はグループ学習の実施が困難だったことを説明し、生徒の自己評価結果と実際の成績のギャップについても言及した。会議の最後に経済単元の実践におけるストーリー化の重要性について提案され、佐藤先生からの提案について検討することを示した。

次に生徒が授業内容に満足しているかどうかについて意見を求め、情報の非対称性や企業の立場からの提案、消費者側の防御策について議論された。この授業の価格競争のイメージを払拭し、多様な選択肢を提供する重要性を強調した。参加者からワークシートの情報が多すぎて、内容の精査の必要性も指摘され、次回はより良い学習内容の設計を行うこととなった。

最後に「シン経済教育」プログラムの設計について議論され、単発的なアプローチではなく4基盤を組み合わせた構造が重要であると強調された。生徒の理解度に応じて内容を調整する必要性も指摘され、より下レベルの生徒にも効果的に伝えられるよう工夫が必要だと述べられた。この討論の後半では、競争の概念を適切に理解させることの重要性和、生徒の実際の経験から情報を引き出してつなげるアプローチの必要性についても議論された。



経済教育ネットワーク
Network for Economic Education



2 夏休み経済教室開催報告が吉村慈子氏(東京証券取引所)と新井明先生(筑波大学附属中)からあった。

(1) 吉村氏は夏休み経済教室の開催報告を行い、東京証券取引所、経済教育ネットワーク、慶応義塾大学商学部が共催したこのイベントが19回目となったことを報告した。

8月12-13日(大阪)と18-19日(東京)に計約600名*が参加し、参加者からの満足度は全体的に高く、特に「シン経済教育」をテーマとした8月13日と19日の対面参加者は中央値を上回る評価だったとの報告があった。

(*申し込み数は746名、参加者数は588名)

ただ、13、19日とも4コマ目の「みんなで話そう」の時間では、参加者数が減少したことの指摘があった。

事後のアンケートでは、約半数がリピーター参加者で、教職経験は10年以下から30年以上の各グループが同じ割合を示し、全体的な満足度は80点以上であったことが報告された。アンケートでは、12日、18日のゲスト講師の講演や、13日、19日の実践プログラムの紹介への満足度が高く、早期の資料共有の希望や講演時間の延長に関する意見があったとの報告があった。

(2) 新井明先生からは夏休みの経済教室の総括として、まず、準備プロセスについて説明し、1月から実施までの段階的な準備と企画決定の流れを参加者と共有した。

新井先生は、夏休みの経済教室の二日目に提案された「シン経済教育」プログラムの評価と今後の方向性についても報告した。プログラムは全体的に高く評価されたものの、討論時の会場の配置、ハイブリッド形式での実施、中学校と高校の教師のニーズの違いなどが検討課題として残ったことを指摘した。

また、「シン経済教育」の次のステップとして、プログラムの確定に向けて試行を重ねながら修正し、最終的には書籍形態での確定を目指したいとの希望を述べられた。

次いで、新井先生が勤務される筑波大学附属中学校での「シン経済教育」の実践報告があった。これは中学版のプログラムを元に、AIを使用して作成した『吾輩はカレーである』を使った実践である。ストーリーは好評で、経済概念との関連性を理解させる教材になりうるのではないかと報告があった。ただ、新井先生からは、『吾輩はカレーである』だけで経済学習を完全に構成するにはリスクがあるとの指摘があり、他の教材と組み合わせ使用することが望ましいと述べられた。

3 最後に当日の進行役杉田から春の経済教室の計画について説明があった。

2027年3月27日(土)午後慶応義塾大学北館3階大会議室にて開催予定であるとの発表があった。「シン経済教育」の普及、定着に向けて、夏の経済教室大阪、東京で発表市川先生と杉浦先生の発表に続き、若手教師の参加を推奨することが述べられた。

(以上、zoomによる記録と文責杉田孝之)

次回開催予定:

次回東京部会: 11月7日(土)慶応義塾大学三田キャンパス東館4階オープンラボにて、15時～開催。

議題: 参加者による実践報告と討論